

**大田区自然観察路「池のみち」等の
生物・植物調査**

報告書

平成 24 年3月

大田区

〈目 次〉

1. 業務概要.....	1
1.1. 業務名称.....	1
1.2. 調査目的.....	1
1.3. 履行期間・履行場所.....	1
1.4. 業務項目.....	1
1.5. 調査実施項目.....	2
1.6. 現地調査日程.....	2
1.7. 調査方法.....	4
1.7.1. 植物・植生調査.....	4
1.7.2. 昆虫類調査(クモ類を含む).....	4
1.7.3. 鳥類調査.....	4
1.7.4. 哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類調査.....	4
1.7.5. 土壌生物調査.....	5
1.7.6. 水生生物調査(魚類を含む).....	5
1.7.7. 区民参加による生物・植物調査.....	6
1.7.8. 文献調査.....	6
2. 調査結果.....	7
2.1. 洗足池公園.....	7
2.1.1. 動植物の生育・生息種の状況.....	7
2.1.2. 重要種.....	10
2.1.3. 外来種.....	29
2.1.4. まとめ.....	35
2.2. 小池公園.....	36
2.2.1. 動植物の生育・生息種の状況.....	36
2.2.2. 重要種.....	39
2.2.3. 外来種.....	50
2.2.4. まとめ.....	53
2.3. 洗足流れ.....	54
2.3.1. 動植物の生育・生息種の状況.....	54
2.3.2. 重要種.....	57
2.3.3. 外来種.....	65
2.3.4. まとめ.....	70
2.4. 呑川.....	71
2.4.1. 動植物の生育・生息種の状況.....	71
2.4.2. 重要種.....	75
2.4.3. 外来種.....	85
2.4.4. まとめ.....	89
3. 文献調査.....	90
3.1. 植物.....	90
3.1.1. 引用文献.....	90

3.1.2. 経年確認状況の比較	91
3.1.3. 外来種の経年確認状況の比較	92
3.2. 昆虫類	94
3.2.1. 引用文献	94
3.2.2. 経年確認状況の比較	94
3.2.3. 外来種の経年確認状況の比較	95
3.3. 鳥類	96
3.3.1. 引用文献	96
3.3.2. 経年確認状況の比較	96
3.3.3. 外来種の経年確認状況の比較	97
3.4. 哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類	98
3.4.1. 引用文献	98
3.4.2. 経年確認状況の比較	98
3.4.3. 外来種の経年確認状況の比較	99
3.5. 土壌生物	100
3.5.1. 引用文献	100
3.5.2. 経年確認状況の比較	100
3.5.3. 外来種の経年確認状況の比較	102
3.6. 水生生物(魚類を含む)	103
3.6.1. 引用文献	103
3.6.2. 経年確認状況の比較	104
3.6.3. 外来種の経年確認状況の比較	105
4. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの提案	107
4.1. 洗足池公園	110
4.1.1. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目	110
4.1.2. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目及び内容	111
4.2. 小池公園	115
4.2.1. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目	115
4.2.2. 生物多様性の向上及び保全に向けた取組み項目及び内容	116
4.3. 洗足流れ	119
4.3.1. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目	119
4.3.2. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目及び内容	120
4.4. 呑川	123
4.4.1. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目	123
4.4.2. 生物多様性の向上及び保全に向けた取り組みの項目及び内容	124
4.5. まとめ	126

1. 業務概要

1.1. 業務名称

業務委託名：大田区自然観察路「池のみち」等の生物・植物調査

1.2. 調査目的

本業務は、洗足池公園の生物・植物について調査を行い、自然観察路を中心とした生物相の状況を把握し、区民等が自然観察を行う際の資料として提供するだけでなく、今後区民と協働して行う、自然環境及び環境保全施策の基礎として利用できるようにする。

そして、過去に行った調査結果と比較して生物相の変化状況を把握し、気候変動、その他の環境の変化を推察する資料とし、併せて当該観察路の外来生物の実態を把握し、今後の予測及び対策の必要性についての検討資料とする。

1.3. 履行期間・履行場所

履行期間：平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

履行場所：東京都大田区の洗足池公園、小池公園、洗足流れ、呑川の指定部分
調査場所については、図1-1に示すとおりである。

1.4. 業務項目

業務項目は以下のとおりとする。

表 1-1 業務項目

工種・種目・細別	単位	数量
(1) 計画準備	式	1
(2) 打合せ協議	式	1
(3) 生物・植物調査	式	1
(4) 区民参加による生物・植物調査	式	1
(5) 成果品の作成	式	1

1.5. 調査実施項目

大田区内の洗足池公園、小池公園、洗足流れ、呑川の指定部分において、植物・植生調査、昆虫類調査(クモ類を含む)、鳥類調査、哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類調査、土壌生物調査、水生生物調査(魚類を含む)を実施した。また、過去に行った調査結果との比較のために、文献調査を実施した。さらに、9月に大田区立赤松小学校及び大田区立大森第六中学校を対象として区民参加による洗足池生物・植物調査(観察会)を実施した。

1.6. 現地調査日程

調査日程は、表 1-2 に示すとおりである。

表 1-2 調査日程

調査項目		調査工程
植物・植生調査	任意観察調査	平成 23 年 5 月 23 日、24 日
		平成 23 年 6 月 23 日、24 日
		平成 23 年 8 月 17 日、18 日
		平成 23 年 10 月 12 日、13 日
昆虫類調査 (クモ類を含む)	任意採集調査	平成 23 年 5 月 19 日、20 日
		平成 23 年 6 月 23 日、24 日
		平成 23 年 8 月 8 日、9 日
		平成 23 年 10 月 12 日、13 日
鳥類調査	任意観察調査	平成 23 年 5 月 23 日、27 日
		平成 23 年 6 月 23 日、24 日
		平成 23 年 10 月 17 日、18 日
		平成 24 年 1 月 23 日、24 日
哺乳類・両生類・ 爬虫類・陸産貝類調査	任意観察調査	平成 23 年 5 月 19 日、20 日
		平成 23 年 7 月 25 日
		平成 23 年 10 月 24 日(陸産貝類)
		平成 23 年 10 月 28 日(哺乳類・両生類・爬虫類)
土壌生物調査	任意採集調査	平成 24 年 3 月 1 日(陸産貝類)
		平成 24 年 3 月 7 日(哺乳類・両生類・爬虫類)
		平成 23 年 5 月 19 日、20 日
		平成 23 年 8 月 17 日、18 日
水生生物調査 (魚類を含む)	任意採集調査	平成 23 年 10 月 17 日、18 日
		平成 24 年 1 月 23 日、24 日
		平成 23 年 5 月 23 日、24 日
		平成 23 年 6 月 3 日※
		平成 23 年 7 月 22 日、23 日
区民参加による洗足池公園生物・植物調査		平成 23 年 10 月 17 日、20 日
		平成 24 年 1 月 19 日、20 日
	大田区立赤松小学校 (植物・水生生物調査)	平成 23 年 9 月 19 日
	大田区立大森第六中学校 (植物・水生生物調査)	平成 23 年 9 月 20 日
文献調査	—	—

※水生生物調査の 6 月 3 日は、5 月 24 日の降雨により順延した呑川の調査を実施した。

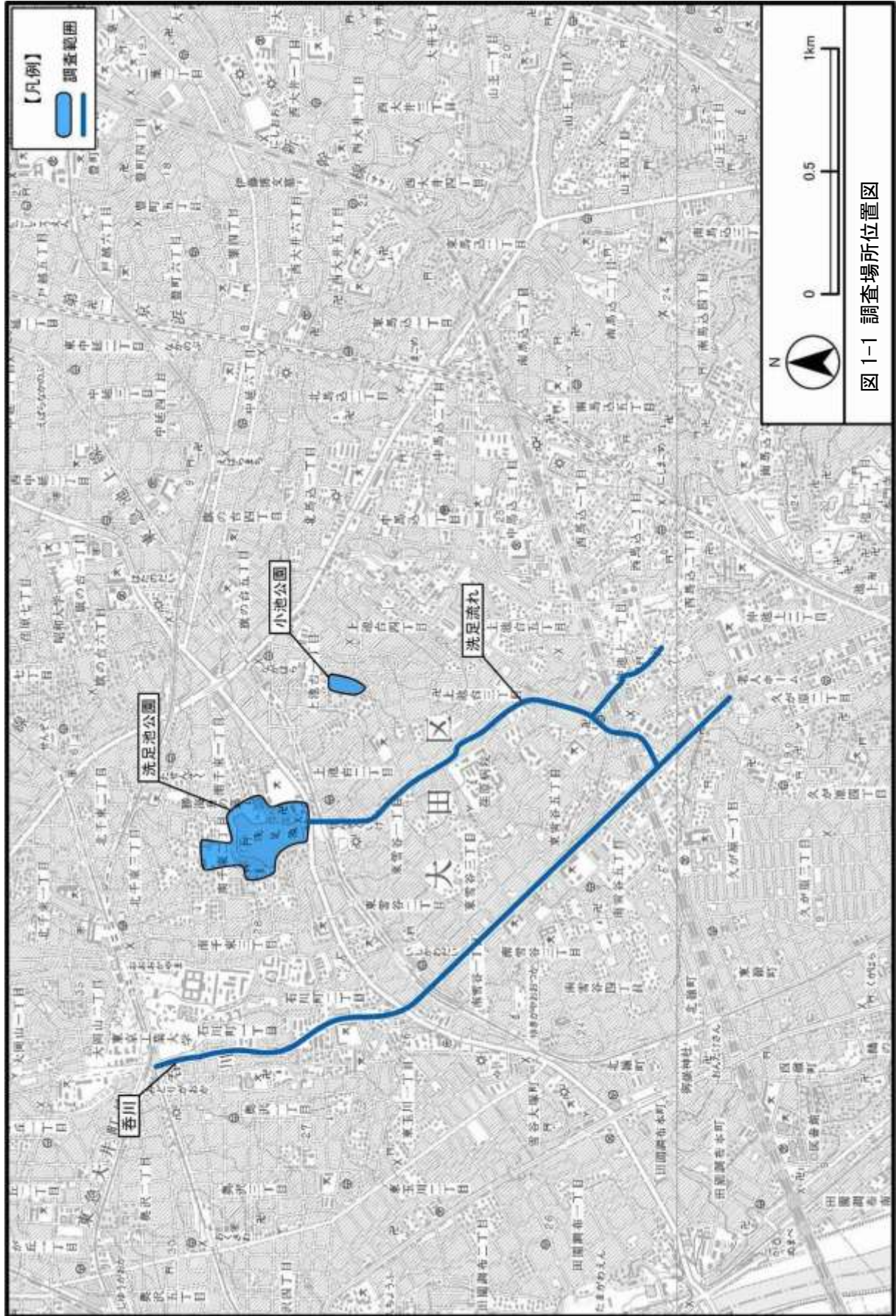


図 1-1 調査場所位置図

1.7. 調査方法

1.7.1. 植物・植生調査

【任意観察調査】

調査範囲内を任意に踏査し、確認された高等植物など植物の種名を記録した。現地での同定が困難な種はその一部を標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。

また、6月調査時の植物の生育状況から植生図を作成し、6月以降に群落ごとに植生調査を行った。植生調査は、各群落の一定範囲内における植物の出現状況(被度・群度)、階層構造、優占種などを記録した。なお、植生調査での被度・群度の記録・取りまとめにより、生育する植物の個体数等の把握を兼ねた。現地調査は5月、6月、8月、10月の合計4回実施した。

1.7.2. 昆虫類調査(クモ類を含む)

【任意採集調査】

調査範囲内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声などで確認された昆虫類の種名、個体数の概数などを記録した。目視観察での種名の確認が困難な場合は、みつけ採り法、スウィーピング法、ビーティング法などにより採集を行った。また、コウチュウ類、ガ類などの走光性をもつ昆虫類の生息の確認を目的に、街灯周辺などにおいて夜間調査を実施した。現地で種名の確認が困難な種は、標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。現地調査は、5月、6月、8月、10月の合計4回実施した。

1.7.3. 鳥類調査

【任意観察調査】

調査範囲内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数の概数などを記録した。なお、目視観察時に適宜双眼鏡や望遠鏡を用いた。現地調査は、5月、6月、10月、1月の合計4回実施した。

1.7.4. 哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類調査

【任意観察調査】

哺乳類調査にあたっては、調査範囲内を任意に踏査し、哺乳類の生息の根拠となる足跡、糞、食痕、掘り返し跡などのフィールドサイン(生息痕)の確認から、生息する種の把握を行い、哺乳類の種名や個体数の概数などを記録した。

爬虫類・両生類調査にあたっては、調査範囲内を任意に踏査し、目視観察及び捕獲、鳴き声などにより確認された両生・爬虫類の種名や個体数の概数などを記録した。現地調査は、5月、7月、10月、3月の合計4回実施した。

【任意採集調査】

陸産貝類調査にあたっては、調査範囲内を任意に踏査し、目視確認の可能な種について種名や個体数の概数などの記録を行うとともに、目視での種名の確認が困難な場合は採集

を行った。現地での種名の確認が困難な種は、標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。現地調査は、5月、7月、10月、3月の合計4回実施した。

1.7.5. 土壌生物調査

【任意採集調査】

調査範囲内を任意に踏査し、みつけ採り法、石起こし法などにより採集を行った。採集した土壌生物は種名、分布状況などを記録した。現地での同定が困難な種は、標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。現地調査は、5月、8月、10月、1月の合計4回実施した。

1.7.6. 水生生物調査(魚類を含む)

【任意採集調査】

調査は、調査範囲内の水域において調査地点を選定し行った。

魚類調査にあたっては、水域の環境ごとにタモ網、投網などの適切な漁具を使用し、採集を行った。採集した魚類は、現地で同定が困難な種を除き、種名、分布状況などを記録した後に放流した。現地での同定が困難な種は、10%ホルマリンで固定して標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。

底生動物調査にあたっては、タモ網などを使用し、採集を行った。採集した底生動物は、現地で同定が困難な種を除き、種名、分布状況などを記録した後に放流した。現地での同定が困難な種は、10%ホルマリンで固定して標本として持ち帰り、室内にて図鑑などを用いた同定を行った。現地調査は、5月、7月、10月、1月の合計4回実施した。

なお、具体的な調査地点は、表 1-3 に示すとおりとした。

表 1-3 水生生物調査地点一覧

調査場所	水生調査地点
洗足池公園	洗足池の北東部岸沿い
小池公園	小池公園の北西部水路流入箇所と東岸沿い
洗足流れ	調査範囲内の約 2.5km のうち代表的な 1 地点
呑川	調査範囲内のうち上流端付近及び下流端付近の 2 地点

1.7.7. 区民参加による生物・植物調査

9月に洗足池公園において、大田区立赤松小学校の5年生及び大田区立大森第六中学校の1、2年生を対象として各1回ずつ生物・植物調査(観察会)を実施した。

生物調査は、主に洗足池に生息している水生生物を対象として捕獲調査を実施した。調査は、洗足池においてタモ網、セルビンなどの漁具を用いて捕獲を行った。捕獲した水生生物については、水槽に入れて観察し、観察終了後には再び池に放流した。

植物調査では、洗足池公園北側の水辺やコナラ林の植物の生育状況を調査・観察し、その後標本の作製を実施した。

なお、区民参加による生物・植物調査の詳細については、別冊にとりまとめた。

1.7.8. 文献調査

大田区において過去の生物相の変化状況を把握するために、文献調査を行った。文献調査は、各種調査報告書から、本業務の調査場所を含む結果と近隣の結果を抽出し、生息する生物の経年変化の把握、及び今年度結果との比較を行った。

2. 調査結果

2.1. 洗足池公園

2.1.1. 動植物の生育・生息種の状況

洗足池公園において生育・生息が確認された動植物の確認種数を表 2-1 に示すとともに、植生図及び主な確認種(群落)を図 2-1 に示す。なお、各項目の現地調査における確認種一覧、植生調査結果は資料編に添付した。

表 2-1 分類群別確認種目科種数一覧(洗足池公園)

項目	目科種数	項目	目科種数
植物	109 科 339 種	昆虫類(クモ類を含む)	11 目 103 科 271 種
鳥類	10 目 20 科 27 種	哺乳類	-
爬虫類	2 目 7 科 7 種	両生類	1 目 2 科 2 種
陸産貝類	1 目 4 科 5 種	土壌生物	16 目 34 科 52 種
魚類	3 目 5 科 12 種	底生動物	8 目 12 科 19 種

注 1) 調査項目は、①植物、②昆虫類(クモ類を含む)、③鳥類、④哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類、⑤土壌生物、⑥水生生物(魚類を含む)の 6 項目であるが、分類群別に示した。
注 2) 植物については、科種数のみを示した。

洗足池公園は、広さ約 40,000 m²の洗足池を中心とした、池のある公園として都内でも屈指の大きさを有する公園であり、洗足池の主な水源は清水窪湧水からの流れ込みとなっている。

洗足池公園には、池を中心とした広い水辺環境や比較的まとまった面積の樹林環境などの他、広場やグラウンド、水生植物園などがみられる。広場や園路沿いには多数の樹木が植栽されており、公園全体として緑が多い状況である。

植生の状況として、池の周辺には、ヒメガマ、フトイ、ヨシなどが、水路脇の湿った場所などにはハンゲショウ、ミソハギ、ミゾカクシなどの湿地性の植物が確認された。公園の北側にある丘陵部の樹林環境は、コナラ、ムクノキ、エゴノキなどの自生する在来の樹木で構成され、林床は、アズマネザサが優占していた。また、水生植物園にはキショウブ、ハナショウブ、アヤメなどの抽水植物が植栽されていた。

洗足池公園には、他の調査地にはないまとまった面積の樹林環境がみられ、比較的多くの植物が分布していたが、樹林の林床は、ほとんどがアズマネザサで覆われており、林床の植生は単調な状況であった。また、広場や園路などの人の利用が多い場所は踏圧の頻度



水辺のヨシ、フトイなど



樹林のコナラなど

が高く、スズメノカタビラ、オオバコなどの路傍雑草が散生する程度であった。

昆虫類は、樹林環境に生息するミナミトゲヘリカメムシ、ヒメクロトラカミキリ、ゴマダラチョウなどや水辺環境に生息するショウジョウトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、アメンボなどが確認された。また、草地環境からは、ウスイロササキリ、ゴマフウンカ、ヤマトシジミなどが確認された。ただし、林床に落ち葉や倒木が無いことや、草地の面積が少なく昆虫相はやや乏しかった。

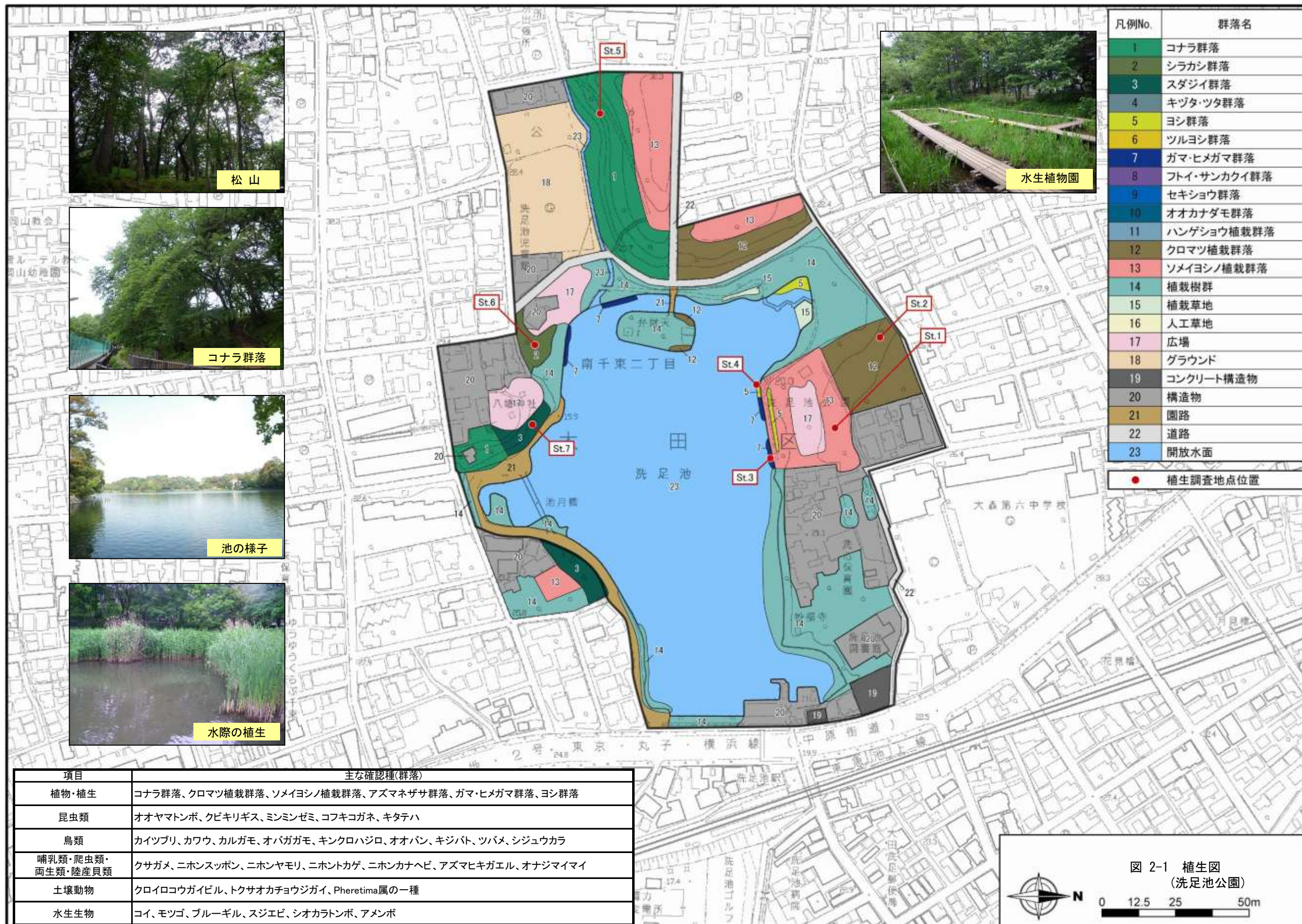
鳥類は、樹林環境に生息するホトトギス、コゲラ、ウグイスや、水辺環境に生息するカイツブリ、カワウ、ゴイサギなどが確認された。なお、水辺の鳥類は、夏季には確認種数が少ないが、冬季には越冬のため飛来する鳥類であるオナガガモやキンクロハジロなど多数のカモ類が洗足池で確認された。ただし、樹林には大きな樹木も多いが、階層構造が発達しておらず、また草本や藪などの下層植生が貧弱であるため、樹林の面積の割に生息する鳥類はやや少ないと考えられる。

哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類は、洗足池や洗足池につながる水路などの水辺環境から、クサガメ、ニホンスッポンなどの爬虫類が確認され、春季には両生類のアズマヒキガエルの成体の産卵行動や卵塊などが確認された。また、樹木のネームプレートの裏からはニホンヤモリが確認され、草地環境からはカナヘビが確認された。陸産貝類については、確認種5種のうち、在来種は木の根際などで確認されたオカチョウジガイのみであった。この他に、市街地の公園という環境を反映して、ペット由来と考えられるカミツキガメやウシガエル、ミシシippアカミミガメといった外来種が確認された。

土壌生物は、樹林やその林床でみられるクロイロコウガイビルやミミズ類、アメイロアリ、サクラアリなどの他、林縁や公園、市街地など様々な環境でみられるクモ類、ワラジムシ類、ヨコエビ類、ヤスデ類、ムカデ類、カメムシ類、コウチュウ類、アリ類などが確認され、土壌生物相は比較的多様であった。

水生生物は、止水域に多くみられるコイやモツゴなどのコイ科の他、トウヨシノボリやヌマチチブなどのハゼ科の魚類、抽水植物帯を主な生息環境とするシオカラトンボといったトンボ類などが確認された。また、捕食などによる他の生物に悪影響を与える可能性が高い外来種であるブルーギルやアメリカザリガニが確認された。

なお、水域には、魚類や水生昆虫の隠れ場所となるヨシやガマなどの抽水植物が分布しており、水生生物にとって良好な生息環境であると考えられたが、底生動物の確認種数は他の調査地と比較して少なかった。このことは、洗足池に多数生息しているコイの影響である可能性が考えられる。コイは、雑食性の魚類であり、その食性から水草の生育を抑制することやトンボのヤゴを減少させることが知られている。洗足池で確認された底生動物の多くは、コイが入り込めない深さの場所から少数個体が得られるという状況であった。また、洗足池公園では、コイに餌を与える利用者がしばしばみられた。



2.1.2. 重要種

現地調査により確認された種を対象に、表 2-2 に示す基準に該当する種を重要種として選定した。重要種の概要を以下に示すとともに、重要種位置図を図 2-2 に示す。

表 2-2 重要種選定基準

植物	選定基準 1 (保護法)	文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号) 特:特別天然記念物 天:天然記念物
	選定基準 2 (種の保存法)	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年 法律第 75 号) 内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種
	選定基準 3 (環境省レッド)	哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省 2007 年 8 月 3 日) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
	選定基準 4 (東京都レッド)	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部) (東京都 平成 22 年) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
動物	選定基準 1 (保護法)	文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号) 特:特別天然記念物 天:天然記念物
	選定基準 2 (種の保存法)	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年 法律第 75 号) 内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種
	選定基準 3-1 (環境省レッド 1)	哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省 2007 年 8 月 3 日) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
	選定基準 3-2 (環境省レッド 2)	鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 2006 年 12 月 22 日) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
	選定基準 4 (東京都レッド)	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部) (東京都 平成 22 年) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

①植物

現地調査の結果、ミズニラ及びミズキンバイが確認された。重要種一覧(植物)を表 2-3 に示す。また、確認された重要種の概要について以下に示す。

確認されたミズニラは、池沼、湿地、水田などの日当たりの良い水中を好む種であり、生育が確認された洗足池公園の水生植物園内は、ミズニラの生育に適した環境となっていると考えられる。

ミズキンバイは、水路、水田の脇や池沼などの日当たりの良い水辺や水中に生育し、攪乱の起こりやすい環境を好む種である。ミズキンバイもミズニラと同じく洗足池公園の水生植物園内において確認された。本種は、東京都レッドリストにおいて、区部絶滅(EX)として掲載されている種であり、植栽もしくは植栽されたアヤメなどと共に移動された可能性が考えられる。更には、水生植物園を整備したことで埋土種子が発芽し、定着した可能性もあるため重要種として扱った。なお、本種は9月に実施した区民参加調査時に確認した種であり、10月調査時には個体が消失していた。

なお、この他に現地調査では重要種選定基準に該当する種としてハンノキ、コウホネ、ヒツジグサ、ハンゲショウ、カリガネソウ、アヤメが確認されたが、花壇に植栽されているなど、生育の状況から植栽株であると考えられたため、重要種として扱わなかった。

表 2-3 重要種一覧(植物)

No.	科名	種名(和名)	調査月					重要種選定基準			
			5月	6月	8月	10月	その他	1	2	3	4
1	ミズニラ	ミズニラ				●	●			VU	DD
2	アカバナ	ミズキンバイ					●			VU	EX
計	2科2種		0種	0種	0種	1種	2種	—	—	2種	2種

選定基準 1:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準 2:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種

選定基準 3:哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省 2007 年 8 月 3 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

選定基準 4:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部)(東京都 平成 22 年)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

※調査月の「その他」は、9月に実施した区民参加による生物・植物調査時に確認された種を示す。

【種名】	ミズニラ(ミズニラ科)
【重要種基準】	選定基準 3(環境省レッド 1):VU 選定基準 4(東京都レッド):DD
【一般生態】	北海道(胆振)、本州、四国(徳島県)、九州(鹿児島県)に分布するシダ植物である。沼、池、湿地、水田などの日当たりの良い水中に生育する水草である。鮮緑色で柔らかく、葉の長さは 10~50cm、時に 1m 以上に達する。池沼の改修や富栄養化によって生育地の減少が著しいとされている。
【確認状況】	10 月調査時に水生植物園の水中において、約 10 株の生育を確認した。
	
確認株	
	
確認環境	

【種名】	ミズキンバイ(アカバナ科)
【重要種基準】	選定基準 3(環境省レッド 1):VU 選定基準 4(東京都レッド):EX
【一般生態】	アカバナ科の多年草であり、北海道、本州、四国、九州に分布する。池や沼の水辺や水中に生育し、夏に黄色い花を咲かせる。時々群生して水面を覆うこともある。
【確認状況】	9 月 19 日及び 9 月 20 日に実施した区民参加調査において、水生植物園の水中で約 2 株の生育を確認した。
	
確認株	
	
確認環境	

②昆虫類(クモ類を含む)

現地調査の結果、重要種としてモノサシトンボ、ウチワヤンマ、ショウリョウバッタモドキ、リングクロカスミカメ、コムラサキの5科5種が確認された。重要種一覧(昆虫類)を表2-4に示す。また、確認された重要種の概要について以下に示す。

ウチワヤンマは比較的規模の大きい池沼などを好む種であり、洗足池は本種にとって良好に保たれているものと考えられる。

ショウリョウバッタモドキは、洗足池公園で夏季に2個体確認されているが、秋季調査時は確認されなかったため、草地の変遷により、生息に適さなくなったことが考えられる。

リングクロカスミカメはかつてリングの害虫であったが、近年、寄主転換を起こしたと考えられており、都心部のフジ棚などで普通にみられるようになった種である。本種は、洗足池公園のフジ棚において普通にみられた。

コムラサキについては、洗足池公園において1個体の死体を確認したが、本種の生息には比較的規模の大きなヤナギ類の樹林が必要であることが知られている。洗足池公園のヤナギ林は規模が小さいことから、本種の生息数は少ないと考えられる。

表 2-4 重要種一覧(昆虫類)

No.	目名	科名	種名(和名)	調査月				重要種選定基準					
				5月	6月	8月	10月	1	2	3	4		
											区部	本土部	
1	トンボ	モノサシトンボ	モノサシトンボ			●						DD	DD
2		サナエトンボ	ウチワヤンマ			●							NT
3	バッタ	バッタ	ショウリョウバッタモドキ			●						VU	VU
4	カメムシ	カスミカメムシ	リングクロカスミカメ	●							NT		
5	チョウ	タテハチョウ	コムラサキ			●						留	
計	4目5科5種			1種	-	4種	-	-	-	-	1種	3種	3種

選定基準 1:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準 2:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種

選定基準 3:哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省 2007 年 8 月 3 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

選定基準 4:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト~(区部及び本土部)

(東京都 平成 22 年)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類

VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

【種名】	モノサシトンボ(モノサシトンボ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):区部 CR+EN 本土部 DD
【一般生態】	北海道、本州、四国、九州に分布する。成熟成虫は主に平地から低山地にかけての樹陰のある池沼、時に河川の淀みなどでもみられる。5～6 月より羽化して林床周辺で過ごし、成熟成虫は夏期を中心に池でみられ生殖行動を行う。9 月頃までみられるが、10 月に入ると大幅に減少する。
【確認状況】	8 月調査時に 1 個体を確認した。
	
確認種(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	ウチワヤンマ(サナエトンボ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):本土部 NT
【一般生態】	本州、四国、九州に分布する。おもに平地や丘陵地の挺水植物や浮葉植物が繁茂する深くて大きい池沼や湖などに生息する。成虫は東海地方では5月下旬～9月中旬までみられる。羽化は夜半に挺水植物や杭、護岸壁などに定位して行う。未熟個体は羽化水域を遠く離れた丘の林でしばしばみつか。成熟した雄は水ぎわに戻り、挺水植物の穂先や水面から突出した竿の先端などに体を水平に保持して静止し、時々近くの水面上を巡回して縄張りを確保する。
【確認状況】	8 月調査時に 5 個体を確認した。
	
確認種(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	ショウリョウバッタモドキ(バッタ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):区部 VU 本土部 VU
【一般生態】	北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。イネ科植物が生えた明るい草原に生息する。都市部の公園や芝生、河川敷などにも適応し、日本のバッタ類の中でも比較的好まれる種類である。主にイネ科植物の葉を食べる。成虫は秋に産卵すると死んでしまい、卵で越冬する。卵は翌年 5～6 月頃に孵化し、6 月中旬から 7 月の梅雨明けにかけて羽化し、11 月頃まで生息する。
【確認状況】	8 月調査時に 2 個体を確認した。
	
確認種(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	リンゴクロカスミカメ(カスミカメムシ科)
【重要種基準】	選定基準 3(環境省レッド):区部 NT
【一般生態】	北海道、本州に分布する。かつては深刻なリンゴの害虫として知られていたが、薬剤防除により激減した。近年、寄主転換を起こしたと考えられており、都心部のフジ棚などから普通に確認されるようになった。理由は明らかではないが、野生のフジから確認されることは少ない。
【確認状況】	5 月調査時に 13 個体を確認した。
	
確認種(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	コムラサキ(タテハチョウ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド): 区部留意種
【一般生態】	北海道、本州、四国、九州に分布する。雄雌とも樹液や熟した果実に誘引され、花にはあまり訪れることがない。雄は湿った地面や動物の死骸に集まる習性をもつ。幼虫はヤナギ類を食樹とする。暖地では5月頃から発生し、秋までに1~2回の発生を繰り返す。幼虫で越冬し、ヤナギ類の樹皮の皺などに密着して晩秋から春までを過ごす。
【確認状況】	8月調査時に1個体の死体を確認した。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>確認種(洗足池公園)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>確認環境(洗足池公園)</p> </div> </div>	

③鳥類

現地調査の結果、重要種としてカイツブリ、ダイサギ、コサギ、オオバン、カワセミの4科5種が確認された。重要種一覧(鳥類)を表2-5に示す。また、確認された重要種の概要について以下に示す。

確認された5種は全て水辺環境で採餌する種であり、これらは洗足池において確認された。洗足池は周囲が樹林に囲まれた池であり、その面積も大きいことから昆虫や小魚、その他の水生昆虫など鳥類の餌となる生物が多いことが考えられ、これらの良好な生息環境として利用されていることが考えられる。

表 2-5 重要種一覧(鳥類)

No.	目名	科名	種名(和名)	調査月				重要種選定基準				
				5月	6月	10月	1月	1	2	3	4	
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			●						NT
2	コウノトリ	サギ	ダイサギ			●	●					VU
3			コサギ			●	●					VU
4	ツル	クイナ	オオバン	●								VU
5	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			●	●					VU
計	4目4科5種			1種	—	4種	3種	—	—	—		5種

選定基準 1:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準 2:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種

選定基準 3:鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 2006 年 12 月 22 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

選定基準 4:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部)(東京都 平成 22 年)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

【種名】	カイツブリ(カイツブリ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):NT
【一般生態】	ほぼ全国的に分布し、北海道と本州北部では夏鳥、本州中部以南では留鳥である。主に平野部の池、湖沼、河川などに広く生息する。ヨシ原の中や水中に繁茂する水草の上に、たくさんの水草の葉や茎を用いてヨシの浮巣をつくって繁殖する。魚類、甲殻類、昆虫類、軟体動物などを潜水して捕食する。
【確認状況】	10月調査時に1個体を確認した。
	
確認種(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	ダイサギ(サギ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	留鳥として関東地方から九州までの各地で繁殖するが、シラサギ3種の中では分布域は最も狭い。冬は大部分が南方へ移動する。河川、湖沼、湿地、海岸に生息し、魚類、カエル、甲殻類、昆虫などを捕食する。人が立ち入らない樹林で他のサギ類と集団で繁殖する。木の枝で皿形の巣をつくり、木の又などに架ける。
【確認状況】	10月調査時に1個体、1月調査時に1個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	コサギ(サギ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	留鳥として本州以南で繁殖するが、国内で地域的な移動をするものや国外で越冬するものもいる。水田、河川、湖沼、湿地、干潟などの水辺に生息し、小魚、甲殻類、カエル、昆虫などを捕食する。マツ林や竹林、雑木林などを集団ねぐらまたは集団営巣地とする。樹上に枯れ枝で粗雑な巣をつくる。
【確認状況】	10月調査時に1個体、1月調査時に1個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	オオバン(クイナ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	留鳥として、主に本州中部以北で局所的に繁殖し、冬季は本州中部以南に移動するものもいる。ヨシやガマなどの生える湖沼、河川に生息する。ヨシ原や草むらの中の水面に、枯れ草を積み重ねて皿形の巣をつくる。水生植物や小魚、昆虫などを食べる。
【確認状況】	10月調査時に1個体、1月調査時に1個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	カワセミ(カワセミ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	留鳥として本州以南に広く分布し、北海道では夏鳥。北方のものは季節移動をする漂鳥である。水辺に生息し、魚類、甲殻類、水生昆虫などを水中に飛び込んで捕らえる。垂直な崖に穴を掘って営巣する。
【確認状況】	洗足池公園において10月調査時に1個体、1月調査時に1個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

④哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類

現地調査の結果、重要種として、両生類のアズマヒキガエル、爬虫類のクサガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビの5科5種が確認された。なお、哺乳類及び陸産貝類は、重要種選定基準に該当する種は確認されなかった。重要種一覧(哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類)を表2-6に示す。また、確認された重要種の概要について以下に示す。

アズマヒキガエルは、洗足池やその周辺の水辺環境において複数の卵や産卵行動中の成体、物陰に隠れている成体などが確認されたことから、洗足池公園は本種の良好な生息環境であると考えられる。

ニホンカナヘビは、草むらを好む種であり、本種が確認された洗足池の池の脇や斜面にみられる草地環境は本種の良好な生息環境であると考えられる。

広範囲で確認されたニホンヤモリは、人家やその周辺域に生息する種であり、都市部に位置する調査地の環境を反映していると考えられる。

クサガメ、ニホンスッポンは、一般にペットや食用として流通しており、調査地が都市部の池や水路であることを勘案すると、確認された個体は飼育や養殖由来である可能性が考えられる。

表 2-6 重要種一覧(哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類)

No.	目名	科名	種名	調査月				重要種選定基準				
				5月	7月	10月	3月	1	2	3-1	3-2	4
両生類												
1	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●			●					NT
計	1目1科1種			1種	-	-	1種	-	-	-	-	1種
爬虫類												
1	カメ	イシガメ	クサガメ	●	●							DD
2		スッポン	ニホンスッポン	●							DD	CR+EN
3	トカゲ	ヤモリ	ニホンヤモリ	●	●	●						VU
4		トカゲ	ニホントカゲ	●	●							CR+EN
5		カナヘビ	ニホンカナヘビ		●	●						
計	2目5科5種			4種	4種	2種	-	-	-	-	1種	5種

選定基準 1:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準 2:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種

選定基準 3-1:哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて
(環境省 2007 年 8 月 3 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

選定基準 3-2:鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて

(環境省 2006 年 12 月 22 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

選定基準 4:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部)(東京都 平成 22 年)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

【種名】	アズマヒキガエル (ヒキガエル科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):NT
【一般生態】	本州の近畿付近から東北部、伊豆大島、北海道の一部に分布する。海岸から高山まで生息場所は広く、都市部の公園や人家付近にも生息する。繁殖期は 2～7 月頃と地域により変化がある。主に昆虫類やクモ類などの陸生節足動物やミズなどを捕食する。
【確認状況】	5月調査時に幼体 10 個体、成体 10 個体、3月調査時に成体 9 個体、卵塊多数を確認した。



確認個体(洗足池公園)



確認環境(洗足池公園)



【種名】	クサガメ (イシガメ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):DD
【一般生態】	本州、四国、九州などに分布する。流れの緩やかな河川や低地の湖沼、及びその周辺に生息する他、水田に水が入れられる頃には、水田にも生息する。遊泳能力はイシガメに比べて低く、水底を這い回って生活している。冬季は河川の岸辺の横穴や、水のよどんだ池沼の深みなどの水中で冬眠する。6～7月に穴を掘って、1回に 4～10 卵を産む。雑食性で動物質・植物質の両方を捕食するが、大型の個体では淡水生の巻き貝や甲殻類の占める割合が高い。
【確認状況】	5月調査地に 3 個体、7月調査時に 2 個体を確認した。





確認個体(小池公園)



確認環境(小池公園)

【種名】	ニホンスッポン(スッポン科)
【重要種基準】	選定基準 3-2(環境省レッド):DD 選定基準 4(東京都レッド):CR+EN
【一般生態】	本州、四国、九州、琉球列島に分布する。底質が砂泥からなる止水や、緩やかな流れのある川に好んで生息する。飼育下では、越冬を終えた個体が4月中頃に活動を始め、この頃から6月頃まで交尾がみられ、産卵は、5月頃から8月頃までみられる。メスは1回に10-50卵、年に3-5回産卵する。肉食性でおもに小魚、エビやカニなどの甲殻類、タニシやアサリなどの貝類を捕食する。
【確認状況】	5月調査時1個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	
	
確認環境(洗足池公園)	

【種名】	ニホンヤモリ (ヤモリ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	本州、四国、九州、対馬などに分布する。人間の生活環境に近いところに生息し、民家などの建物や、人家周辺に多くみられる。5~8月頃に2~3個の卵を1~2回産卵する。卵は40日から90日で孵化する。主に夜間活動し、昆虫類やクモ類を捕食する。
【確認状況】	5月調査時に8個体、7月調査時に4個体、10月調査時に4個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	
	
確認環境(洗足池公園)	

【種名】	ニホントカゲ (トカゲ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):CR+EN
【一般生態】	北海道、本州、四国、九州と周辺の島に分布する。平野部から山地の開けた環境に生息する。林縁部や山道、石垣などにすむ。4～5 月に交尾し、1ヶ月ほどで 5～16 個の卵を産む。卵は 31 日～35 日で孵化する。主に昆虫類やクモ類などの陸生節足動物やミミズなどを捕食する。
【確認状況】	5 月調査時に幼体 1 個体、7 月調査時に 3 個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	ニホンカナヘビ(カナヘビ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):VU
【一般生態】	日本固有種で、北海道、本州、四国、九州及び周辺の島嶼に分布する。平地から低山地の草地などにすむ。繁殖期は 3～9 月で、2～6 個の卵を、1～6 回産卵する。卵は約 2ヶ月で孵化する。主に昆虫類やクモ類を捕食する。
【確認状況】	7 月調査時に 3 個体、8 月調査時に 1 個体、10 月調査時に成体 1 個体、幼体 4 個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

⑤土壌生物

現地調査の結果、重要種の選定基準に該当する種は確認されなかった。

⑥水生生物(魚類を含む)

重要種として、魚類ではメダカ、ヌマチチブの2目2科2種、底生動物ではスジエビ、モノサシトンボの2目2科2種が確認された。重要種一覧(水生生物)を表2-7に示す。また、確認された重要種の概要について以下に示す。

メダカは、洗足池の水際の植生帯において多く確認された。ただし本種は、池沼や河川の緩流域に生息する種であるが、観賞魚として販売されている他、小学校などの教材として扱われることも多く、放流が行われやすい状況であるため、確認された個体は放流由来の個体の可能性がある。

ヌマチチブは、洗足池の広範囲に比較的多くの個体が確認された。本来川と海を往来する種であるが、湖などに陸封することが知られており、洗足池は現在落差などにより海との連続性がたたれているため、確認された個体は陸封個体であると考えられる。

モノサシトンボは、水際の植生帯から確認された。この環境が広範囲にみられる洗足池は、本種にとって良好な生息環境であると考えられる。

表 2-7 重要種一覧(水生生物)

No.	目名	科名	種名(和名)	調査月				重要種選定基準						
				5月	7月	10月	1月	1	2	3-1	3-2	4		
												区部	本土部	
魚類														
1	ダツ	メダカ	メダカ		●		●				VU		CR+EN	CR+EN
2	スズキ	ハゼ	ヌマチチブ		●	●	●						留	
計	2目2科2種			-	2種	1種	2種	-	-	1種	-		2種	1種
底生動物														
1	エビ	テナガエビ	スジエビ		●	●							留	留
2	トンボ	モノサシトンボ	モノサシトンボ	●									DD	DD
計	2目2科2種			1種	1種	1種	-	-	-	-	-		2種	2種

選定基準 1:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準 2:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年 法律第 75 号)

内:国内希少野生動植物種 際:国際希少野生動植物種 緊:緊急指定種

選定基準 3-1:哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省 2007 年 8 月 3 日)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

選定基準 3-2:鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて

(環境省 2006 年 12 月 22 日)


EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

DD:情報不足

選定基準 4:東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～(区部)(東京都 平成 22 年)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

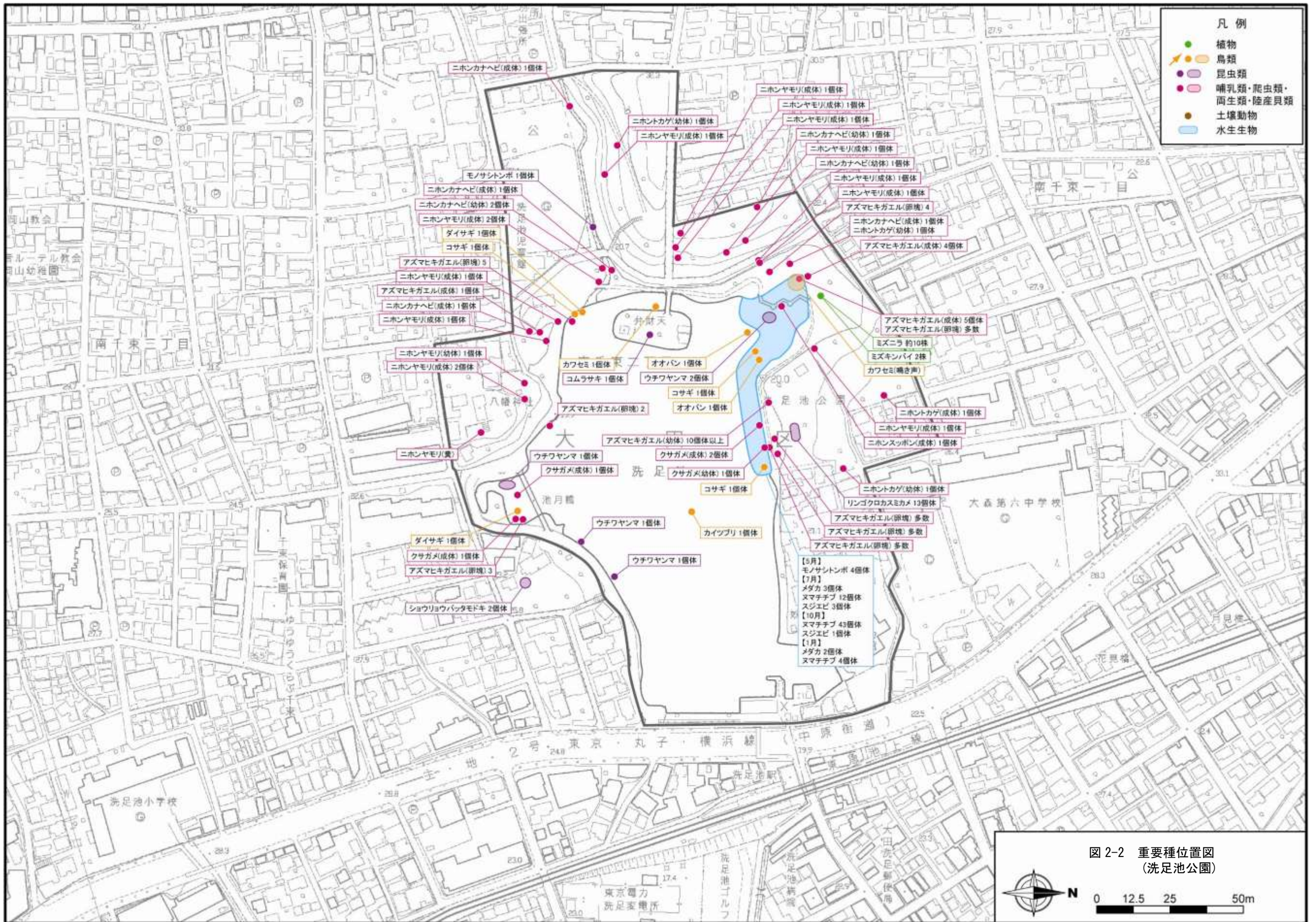
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

【種名】	メダカ(メダカ科)
【重要種基準】	選定基準 3-1(環境省レッド 1):VU 選定基準 4(東京都レッド):CR+EN
【一般生態】	本州～南琉球列島に分布するが、近年では北海道にも移植されている。平地の池や湖、水田や用水路、河川の下流域などの流れの緩い場所に生息する。繁殖期は4～10月で、藻類や水生植物に産卵する。産卵数は1回に10～20粒程度であるが、産卵回数が非常に多いことから、産卵数は1シーズンに1,000粒程度にもなる。動物性プランクトンや植物性プランクトンの他、小さな落下昆虫なども餌とする雑食性種である。
【確認状況】	7月調査時に3個体、1月調査時に2個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	ヌマチチブ(ハゼ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):留意種
【一般生態】	北海道から九州に分布する。河川の汽水域から中流域、汽水湖、ため池など、きわめて多様な場所に生息している。産卵期は春から夏で、転石や石垣の隙間などを産卵室とする。雄は産卵室にとどまり孵化まで卵を保護する。小さな水生昆虫や藻類を食べる雑食性種である。
【確認状況】	7月調査時に12個体、10月調査時に43個体、1月に洗足池公園で4個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	スジエビ(テナガエビ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):留意種
【一般生態】	北海道から本州、四国、九州、琉球列島と日本全土に分布し、湖沼や池、河川など、止水から流水に至る様々な淡水域に生息する。繁殖期は 3~8 月。雑食性で、水生植物や魚の死骸などを餌とする。
【確認状況】	7 月調査時に 3 個体、10 月に 1 個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)

【種名】	モノサシトンボ(モノサシトンボ科)
【重要種基準】	選定基準 4(東京都レッド):DD
【一般生態】	北海道、本州、四国、九州に分布し、粟島、佐渡島、壱岐、対馬などの島にも生息する。主に平野や丘陵地のヨシやマコモ、その他の抽水植物や浮葉植物が茂る植物性沈積物が多い池沼や湿地の淵の緩やかな流れなどに生息する。市街地の神社や寺の自然状態の池でかなりの個体をみかけることもある。幼虫は抽水植物の根際につかまったり、植物性沈積物の隙間などに潜んで暮らしている。成虫は東海地方では 5 月末ないし 6 月上旬から 9 月中旬にかけて出現する。繁殖産卵は、沈水植物や浮葉植物の水面直下の生体組織内へ行うことが多い。
【確認状況】	5 月調査時に 4 個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	確認環境(洗足池公園)



2.1.3. 外来種

現地調査により確認された種を対象に、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)」において、「特定外来生物」及び「未判定外来生物」に該当する種、環境省によって「要注意外来生物」として指定されている種を外来種として扱った。

①植物

現地調査の結果、特定外来生物、または要注意外来生物に該当する外来種として、表2-8に示す9科16種が確認された。

確認された外来種は、広場や園路脇、林縁部などにおいて多く確認された。また、トウネズミモチ、キショウブといった植栽された種もみられた。いずれの種も在来種との競合・駆逐が懸念される。

表 2-8 外来種一覧(植物)

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査月			
			1	2	5月	6月	8月	10月
1	カタバミ	ムラサキカタバミ		要(2)		●	●	●
2	アカバナ	メマツヨイグサ		要(2)	●	●	●	
3	モクセイ	トウネズミモチ		要(3)	●	●	●	
4	キク	アメリカセンダングサ		要(2)	●	●	●	●
5		コセンダングサ		要(2)			●	●
6		オオアレチノギク		要(2)				●
7		ヒメムカシヨモギ		要(2)		●	●	●
8		ハルジオン		要(2)	●	●	●	●
9		セイタカアワダチソウ		要(1)	●	●	●	●
10		セイヨウタンポポ		要(2)		●		●
11		ミズアオイ	ホテイアオイ		要(1)		●	
12	アヤメ	キショウブ		要(2)	●	●	●	
13	ツユクサ	ノハカタカラクサ		要(2)	●	●	●	●
14	イネ	オニウシノケグサ		要(3)		●		
15		ネズミムギ		要(3)	●			
16	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ		要(2)			●	
計	9科16種		-	16種	8種	12種	11種	9種

選定基準1:特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

特:特定外来生物 未:未判定外来生物

選定基準2:環境省により要注意外来生物に指定されている種

要:要注意外来生物

(1)被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

(2)被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

(3)選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

②昆虫類(クモ類を含む)

現地調査の結果、外来種に該当する種として、アカボシゴマダラが確認された。確認された外来種を表 2-9 に示す。アカボシゴマダラは近年関東地方で分布を拡大しつつある種である。幼虫期の食樹はエノキで、類似環境に生息する在来種のゴマダラチョウと生態的に競合する可能性が懸念される。

表 2-9 外来種一覧(昆虫)

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査月			
			1	2	5月	6月	8月	10月
1	タテハチョウ	アカボシゴマダラ		要(2)	●			
計		1科1種		1種	1種	-	-	-

選定基準 1: 特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 法律第 78 号)

特: 特定外来生物 未: 未判定外来生物

選定基準 2: 環境省により要注意外来生物に指定されている種

要: 要注意外来生物

(1) 被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

(2) 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

(3) 選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

③鳥類

現地調査の結果、外来種の選定基準に該当する外来種は確認されなかった。

④哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類

現地調査の結果、外来種に該当する種として表 2-10 に示す 3 科 3 種が確認された。

なお、特定外来生物に指定されているウシガエル、カミツキガメについては、以下に概要を示すと共に確認位置を図 2-3 に示す。

確認された 3 種は、いずれも水域を利用する種であり、特にウシガエル、ミシシippia カミミガメは、全国の池、河川などに広く分布する種である。カミツキガメは、1960 年代から日本に侵入したと考えられており、東京都においても上野公園や光ヶ丘公園など都内の公園では定着が示唆されている。

いずれの種も、魚類、昆虫類、両生類など水辺の小動物を捕食することから、在来種との競合や捕食などの影響が懸念されている。

表 2-10 外来種一覧(哺乳類・爬虫類・両生類・陸産貝類)

No.	科名	種名	選定基準		調査月			
			1	2	5月	7月	10月	3月
1	アカガエル	ウシガエル	特		●	●		
2	ヌマガメ	ミシシippアカミガメ		要(1)	●	●	●	
3	カミツキガメ	カミツキガメ	特		●			
計	3科3種		2種	1種	3種	2種	1種	-

選定基準 1: 特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年 法律第 78 号)

特: 特定外来生物 未: 未判定外来生物


選定基準 2: 環境省により要注意外来生物に指定されている種

要: 要注意外来生物

(1) 被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

(2) 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

(3) 選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

【種名】	ウシガエル(アカガエル科)
【選定基準】	選定基準 1: 特
【一般生態】	アメリカ原産の外来種である。北海道、本州、四国、九州の他に徳之島、沖縄島、石垣島などの島に分布する。池や湖、大きな河川のよどみなどを繁殖場所とし、その付近の草地などに生息し、水辺をあまり離れない。5月頃から9月頃にかけて繁殖期をむかえ、水草の多い場所などに産卵する。
【確認状況】	5月調査時に成体2個体、7月調査時に成体1個体を確認した。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>確認個体(洗足池公園)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>確認環境(洗足池公園)</p> </div> </div>	

【種名】	カミツキガメ(カミツキガメ科)
【選定基準】	選定基準 1: 特
【一般生態】	カナダ、アメリカ原産の外来種である。北海道から沖縄までの各地で野外確認されており、現在は千葉県印旛沼とその周辺の水系に定着している他、東京都練馬区の光が丘公園の池や台東区の不忍池など、いくつかの水域で定着の可能性が示唆されている。河川、湖沼、水路、湿地などに生息し、緩やかな流れや止水域の水生植物、岩、沈水木などが多い場所を好む。肉食傾向が強く、魚類、両生類、小型のカメ類、貝類、水生昆虫などを捕食する他、動物の死骸や植物質も採食する。千葉県での産卵時期は6月であり、1回に20個程度、多いときに100個以上の卵を産む。
【確認状況】	洗足池の水際において、5月調査時に幼体1個体を確認した。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>確認個体(洗足池公園)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>確認環境(洗足池公園)</p> </div> </div>	

⑤ 土壌生物

現地調査の結果、外来種の選定基準に該当する外来種は確認されなかった。

⑥ 水生生物(魚類を含む)

現地調査の結果、特定外来生物、または要注意外来生物に該当する外来種として、ソウギョ、ブルーギル、アメリカザリガニの3科3種が確認された。確認された外来種を表 2-11 に示す。

洗足池は、他の河川などと連絡していないことから、これらの外来種は全て人為的に持ち込まれたものと考えられる。

ソウギョは除草を目的に日本に導入された種であり、在来の水草への影響が、ブルーギルは、雑食性でその幅が広く在来生物への捕食などが懸念されている。アメリカザリガニは、捕食や競合による生態系への影響が懸念されている。

なお、特定外来生物に指定されているブルーギルについては、以下に概要を示すと共に確認位置を図 2-3 に示す。

表 2-11 外来種一覧(水生生物)

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査月			
			1	2	5月	7月	10月	1月
魚類								
1	コイ	ソウギョ		要(2)	●			
2	サンフィッシュ	ブルーギル	特		●			
計	2科2種		1種	1種	2種	-	-	-
底生動物								
1	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		要(1)	●	●	●	
計	1科1種		-	1種	1種	1種	1種	-

選定基準 1: 特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年 法律第 78 号)

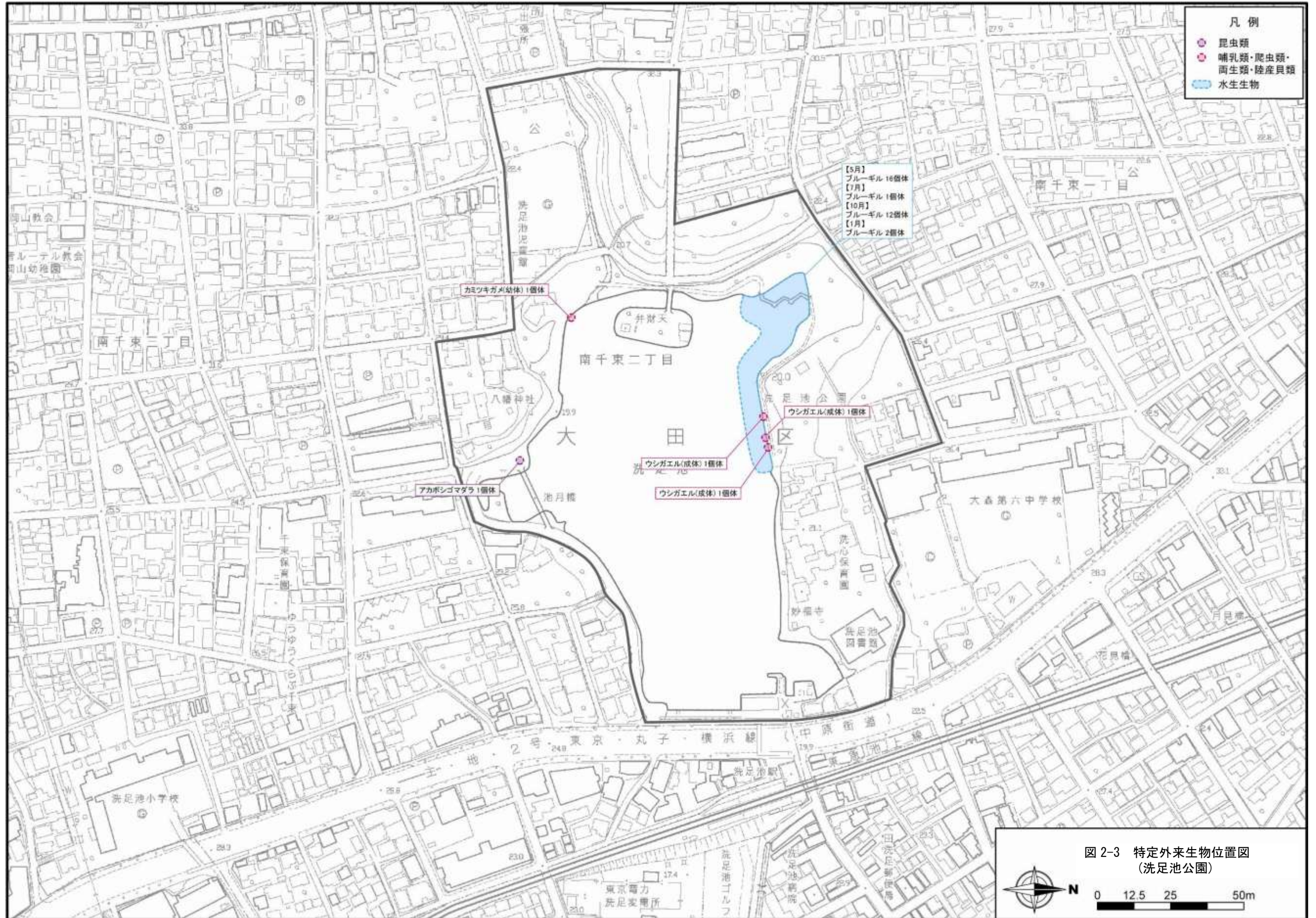
特: 特定外来生物 未: 未判定外来生物

選定基準 2: 環境省により要注意外来生物に指定されている種

要: 要注意外来生物

- (1) 被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物
- (2) 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物
- (3) 選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

【種名】	ブルーギル (サンフィッシュ科)
【選定基準】	選定基準 1: 特
【一般生態】	アメリカ原産の帰化種。日本各地の湖やため池、河川に分布する。沿岸帯の水生植物帯、また河川でも流れの緩やかな水草帯などに生息する。西日本での産卵期は、6 から 7 月。雄が砂泥底にすりばち状の巣をつくり、雌を呼び入れて産卵させる。雑食性で、浮遊動物、水生昆虫、エビ、水生植物などを好み、季節によっては魚卵や小魚なども食べる。
【確認状況】	5月調査時に16個体、7月調査時に1個体、10月調査時に12個体、1月調査時に2個体を確認した。
	
確認個体(洗足池公園)	
	
確認環境(洗足池公園)	



2.1.4. まとめ

洗足池公園は、市街地の公園であり利用者が多い公園であり、池を中心とした広い水辺環境や比較的まとまった面積の樹林環境などの他、広場やグラウンド、水生植物園などがみられる。なお、広場や園路沿いには樹木が多数植栽されており、公園全体として緑が多い状況であった。

洗足池公園が有している規模が大きな水辺環境や比較的まとまった面積の樹林環境は、全調査地内で最も広い面積であり、この環境を反映して、植物、昆虫類、鳥類、爬虫類、両生類、土壤生物、魚類の確認種数が本業務の調査地全体の中で最多であった。

これらのことから、洗足池公園は、当該自然観察路における重要な拠点であることが示唆された。

洗足池公園の特徴としては、コナラ、ムクノキ、エゴノキなど樹林環境及び広面積の水域を包括していることが挙げられ、これらの環境に生育・生息する植物のミズニラや昆虫類のウチワヤンマ、カルガモなどのカモ類やダイサギなどのサギ類といった水鳥、水域に生息するクサガメや草むらに生息するニホンカナヘビなどの爬虫類、多数のコイや止水や緩流に生息するモツゴなどの魚類が確認された。

ただし、草地環境や樹林の下層植生、落枝・倒木については、公園管理が行き届いており定期的に草刈や清掃が行われているため、生物の生息にとっては安定した環境ではなく、草地や樹林の林床、倒木などを利用する昆虫や土壤生物、鳥類が少ない状況であった。水域では、底生動物の多くがコイが入り込めない深さの場所から少数が確認される状況であったことから、コイによる捕食圧の高さが伺われた。

なお、市街地の公園であることを反映して、人為的な放流と考えられる特定外来生物のカミツキガメ、ウシガエル、ブルーギル、要注意外来生物のミシシippアカミミガメ、ソウギョ、アメリカザリガニの他に、植栽されたトウネズミモチなど複数の外来植物が確認された。

この他に、来園者がコイやカメ、水鳥などに餌を与える状況に加え、広場や園路などの人の利用が多い場所では、踏圧の頻度が高くスズメノカタビラ、オオバコなどの路傍雑草が散生する程度の状況であった。